

## シバ草地の保全・再生実施方針（案）

## 1. 目的

重点保護地区（A地区のうち奈良公園平坦部）における「奈良のシカ」の生息環境のうち、特に餌環境の改善のために、「シバ草地の保全・再生実施方針（案）」を作成する。

本資料では、保全・再生実施のために必要な奈良公園平坦部におけるシバ草地の生育状態（裸地化の状況）の調査結果を示すとともに、シバ草地の保全・再生実施方針（案）を整理した。

## 2. 奈良公園平坦部におけるシバ草地の現状

## 2.1. シバ草地の分布

奈良公園平坦部におけるシバ草地は、登大路園地、奈良国立博物館周辺、浅茅ヶ原園地、荒池園地、飛火野、浮雲園地、春日野園地、東大寺北側、東大寺西側、大仏池周辺に分布が見られる（図 1）。

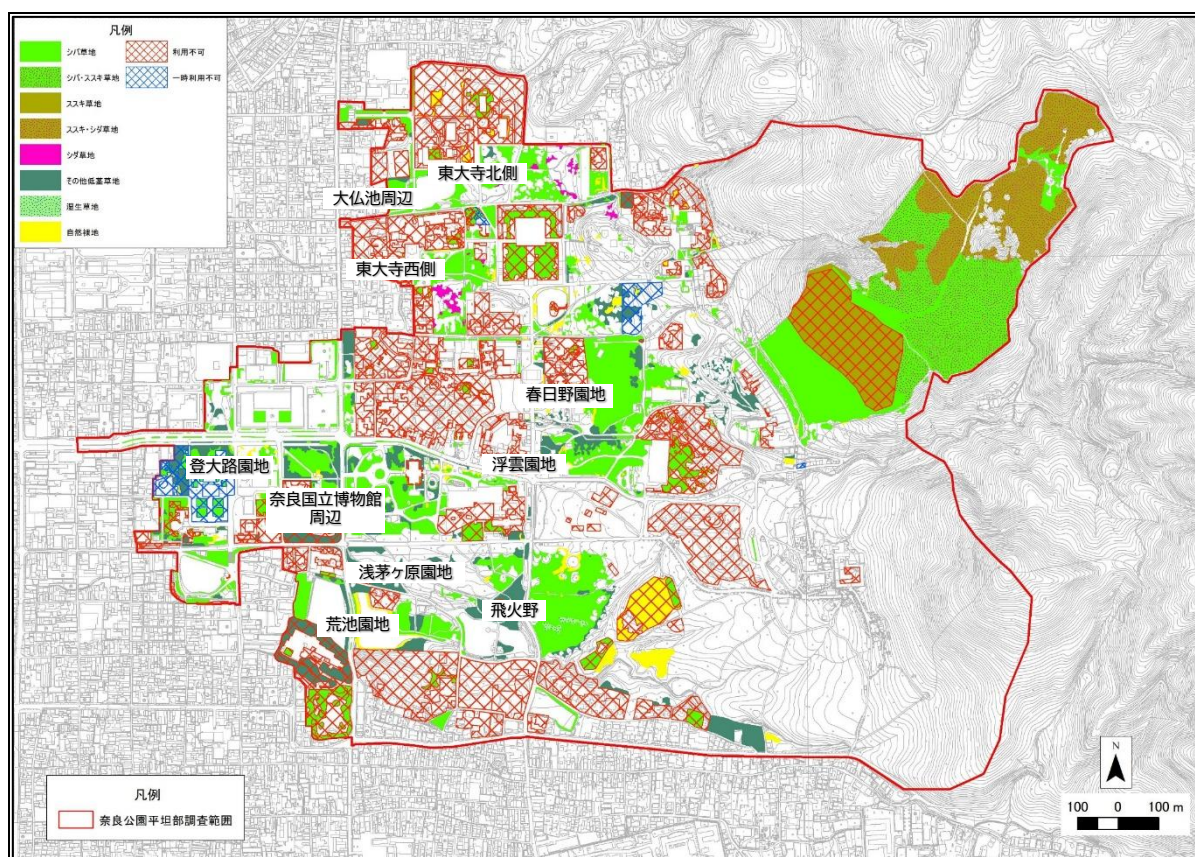


図 1 令和 2（2020）年における草地の分布（奈良県，2021）

※辻野（2015）をもとに令和 2 年の状況を反映させたものである

## 2.2. 現地調査（シバ草地生育状況調査）

### 2.2.1. 調査方法

重点保護地区（A 地区；奈良公園平坦部）におけるシバ草地の現状について把握するため、シバ草地の生育状況調査を実施した。調査は、予備調査を 2025 年 9 月 18 日、本調査を 2025 年 11 月 11～12 日に実施した。

現地調査は、奈良公園平坦部の図 1 に示されているシバ草地分布域を中心に、建物などがあり植生がない場所や確認できない場所を除いた形で調査範囲を設定して実施した。調査は、調査範囲を 50m×50m のメッシュに区切り、メッシュごとのシバ草地の状態をシバの植被率により 3 段階（1～3）に類型区分して記録した（表 1、表 2）。

表 1 シバ草地の状態（植被率）に基づく類型区分

類型区分	シバ草地の状態（50m×50mメッシュ内のシバの植被率）
1	裸地が多い場所 シバの植被率：20%未満（樹林割合 50%以上）
	裸地が多い場所 シバの植被率：20%未満（樹林割合 50%未満）
2	裸地が一部見られる場所 シバの植被率：20%以上 80%未満
3	裸地があまり見られない場所 シバの植被率：80%以上

表 2 シバ草地の状態のイメージ（2025 年 9 月撮影）

	
裸地が多い場所（類型区分 1） （樹林割合 50%以上）登大路園地	裸地が多い場所（類型区分 1） （樹林割合 50%未満）登大路園地
	
裸地が一部見られる場所（類型区分 2） 浮雲園地：東大寺参道近傍	裸地があまり見られない場所 （類型区分 3）春日野園地

## 2.2.2. 調査結果

調査の結果、調査範囲内（533 メッシュ）において、踏圧等により裸地化が進んでいる類型区分 1（樹林割合が 50%未満）のメッシュは 135 メッシュ（25.3%）あり、シバが良好に生育している類型区分 3 のメッシュは 129 メッシュ（24.2%）であった（図 2）。

その分布については、奈良公園平坦部におけるシバ草地の状態は、踏圧等による裸地が多くみられる類型区分 1（樹林割合 50%未満）のメッシュは、登大路園地付近、大仏殿前交差点付近（浮雲園地）、奈良国立博物館北側付近で見られ、良好なシバ地の状態である類型区分 3 のメッシュは春日野国際フォーラム付近（春日野園地）や東大寺大仏殿北付近、飛火野、若草山入口付近等で見られた（図 3、表 3）。

表 3 シバ草地の状態（植被率）に基づく類型区分

類型区分	確認された場所の特徴	確認された主な場所
1	主に樹林下のためシバの植被率が低い場所	春日大社境内地等の樹林地
	主に過剰な観光客利用等による踏圧が原因でシバ地が衰退し裸地化が進んでいる場所	登大路園地付近、奈良県庁付近、大仏殿前交差点付近、南大門付近、奈良国立博物館北側付近等
2	目立つ裸地は見られないが、一部、シバ以外の草本植生（ノチドメ群落など）も含まれる。	奈良国立博物館西側付近等
3	シバの生育状況が良好で、裸地があまり見られない。人の利用も少ない。	春日野国際フォーラム付近（春日野園地）、東大寺大仏殿北付近、正倉院付近、若草山入口付近等

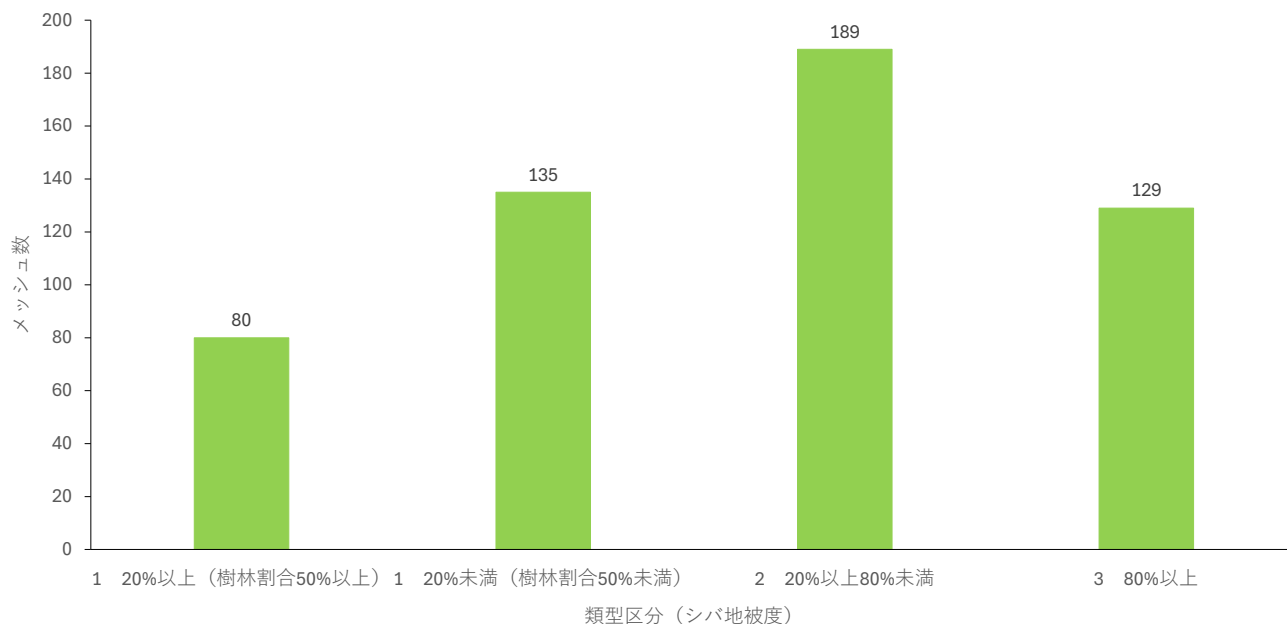


図 2 シバ地類型区分ごとのメッシュ数

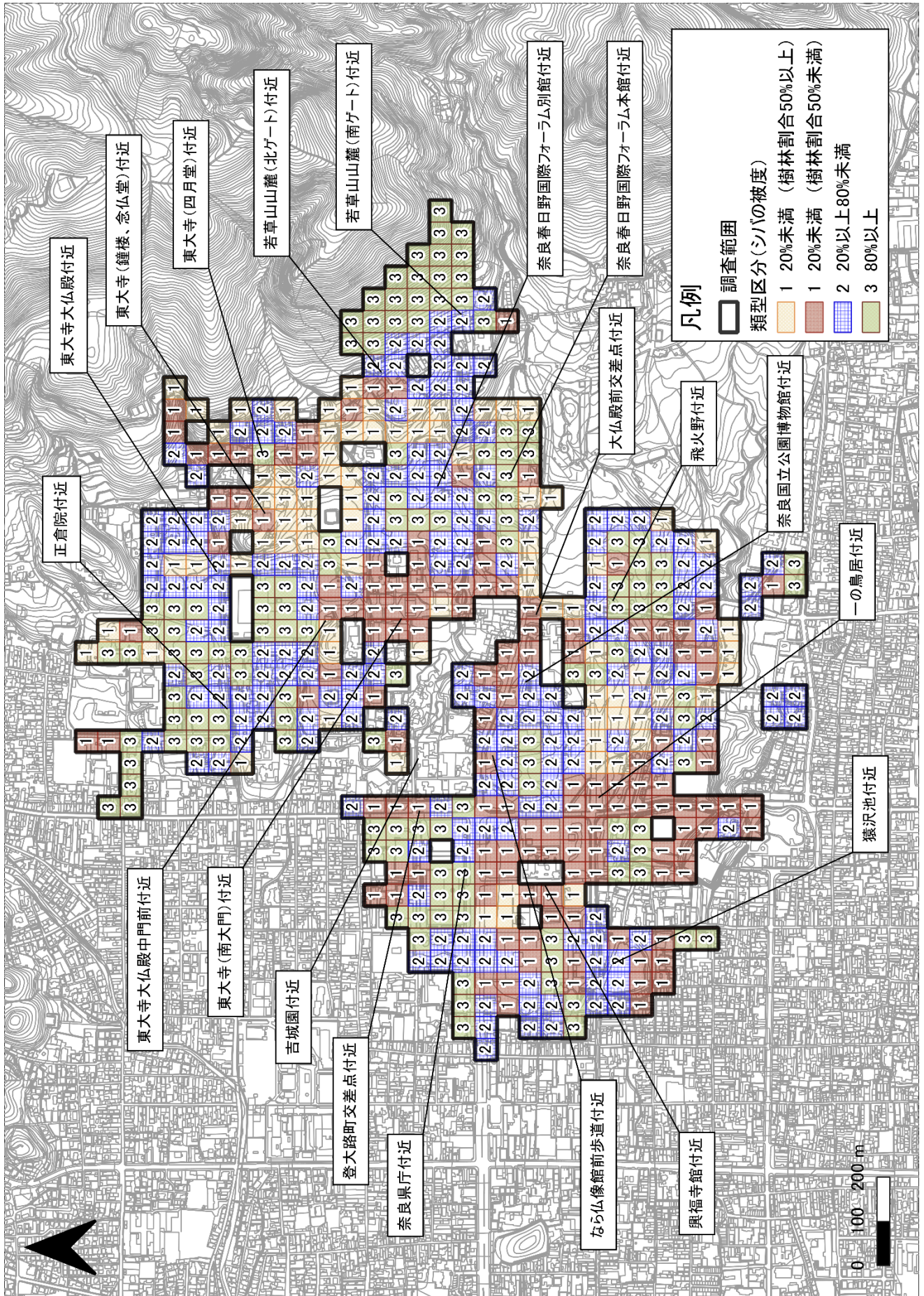


図 3 シバ草地の状態

### 2.2.3. シバ草地の類型区分と観光客入込数との関係

これらシバ草地の生育状況について、現地調査を実施した結果、人による踏圧の影響が考えられたことから、観光客の動向（どのエリアに観光客が多いか）等の実態を把握し、踏圧影響について分析した。分析にあたっては、奈良県が奈良公園内に設置している無料 Wi-Fi アクセスポイント（AP）への接続人数（図4、5）を参照とした。

シバ草地で裸地が多くみられる場所である類型区分1（樹林割合50%未満）が集中して分布する場所は、APのアクセス数が多い場所（登大路園地付近、奈良県庁付近、大仏殿前交差点付近等）であった（図6）。これらの場所は鹿せんべいの販売所が多く分布しており、そのため、シカが多く集まる場所であり、多くの観光客が滞留する場所であった（図7）。

一方、裸地があまり見られず、シバ生育状況が良好な場所である類型区分3の場所は、APのアクセス数が少ない場所（正倉院付近、東大寺大仏殿北付近、奈良春日野国際フォーラム付近等）であった。これらの場所は、行商による鹿せんべいの販売所が分布しておらず、観光客の滞留も少ない場所であった。なお、若草山入口付近も類型区分3であったが、柵で囲われており、入場券が必要なため、観光客の入込人数が制限されている。

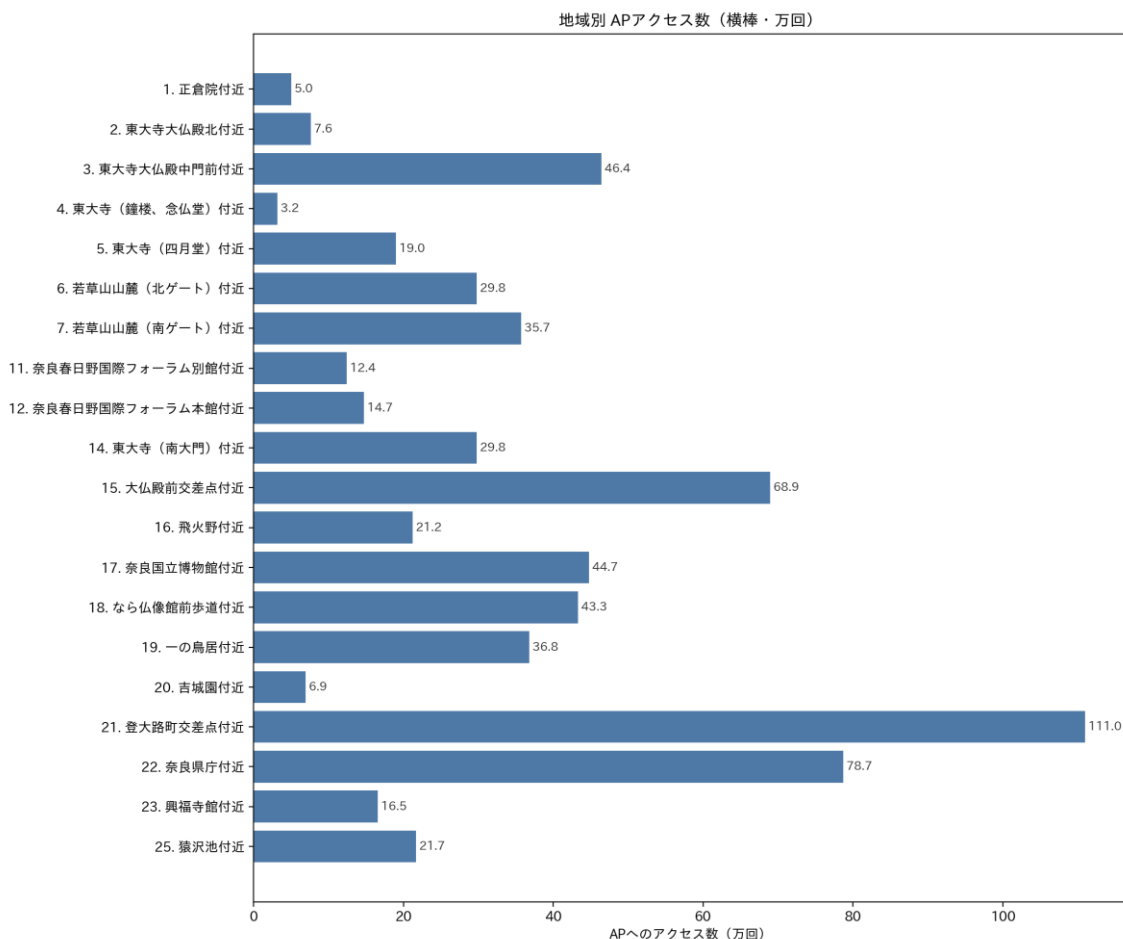


図4 奈良 Free Wi-Fi のアクセスポイントごとのアクセス数の総計（2024.4～2025.2）

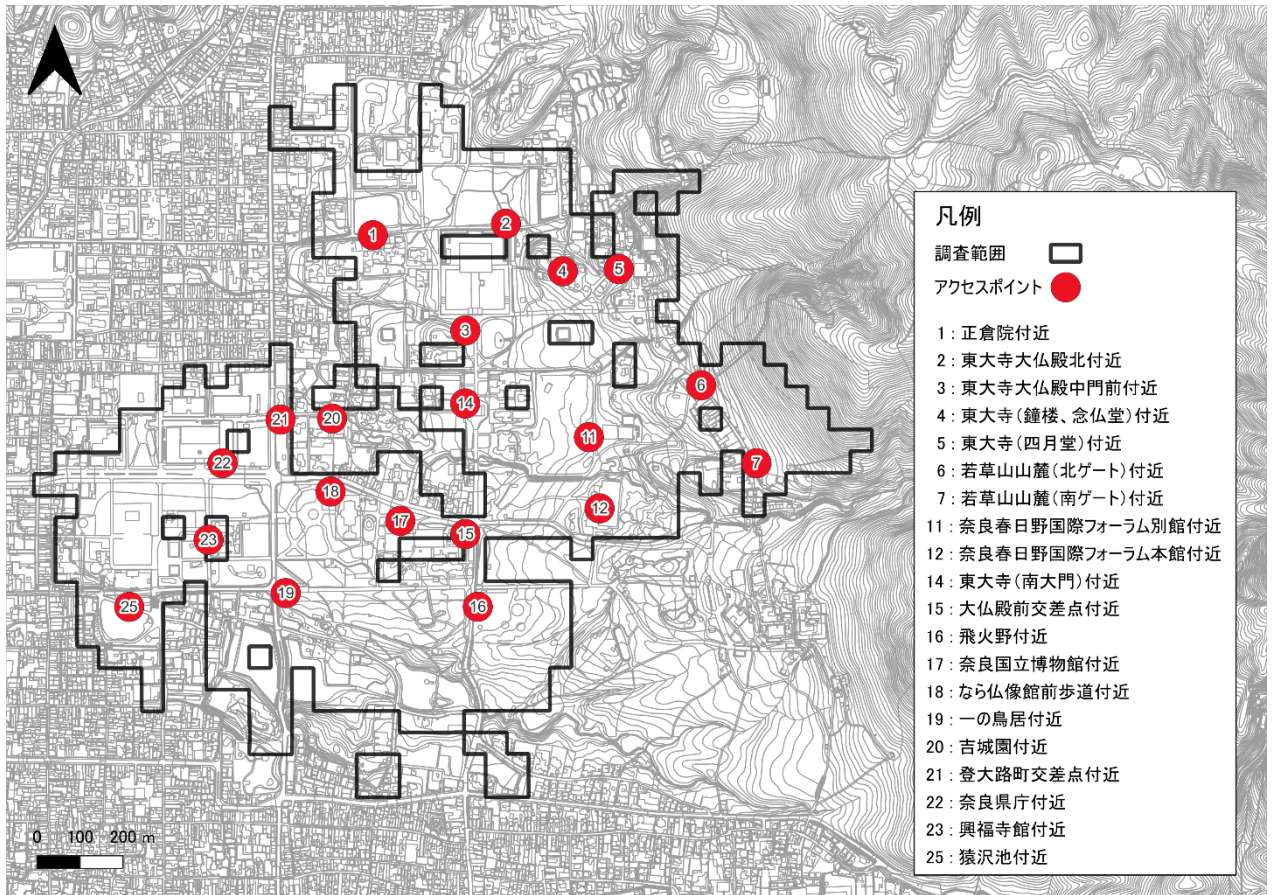


図5 奈良 Free Wi-Fi アクセスポイント配置 (奈良県資料から作成) ※図中番号は図4に対応

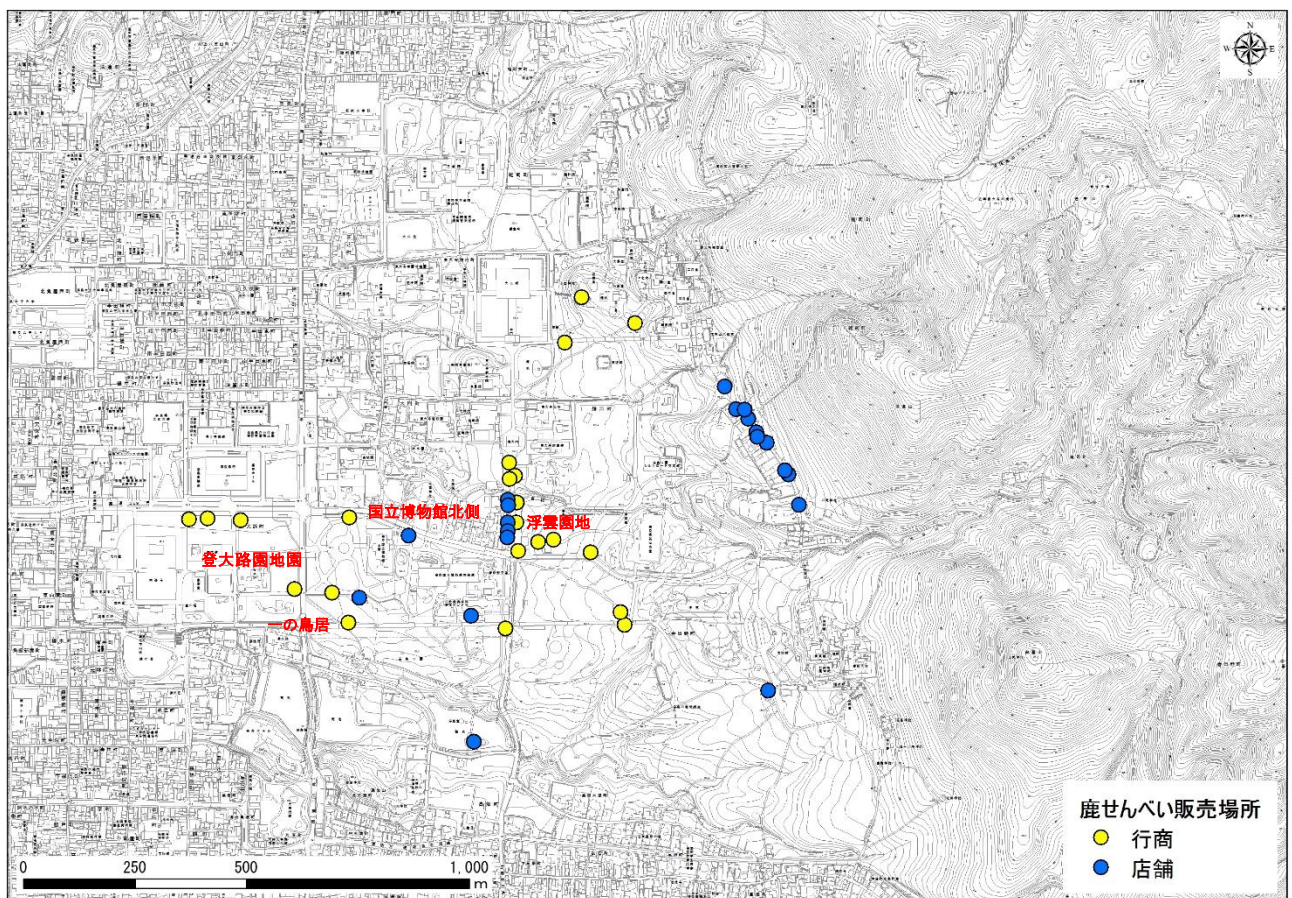


図6 鹿せんべい販売場所 (2016年秋季)

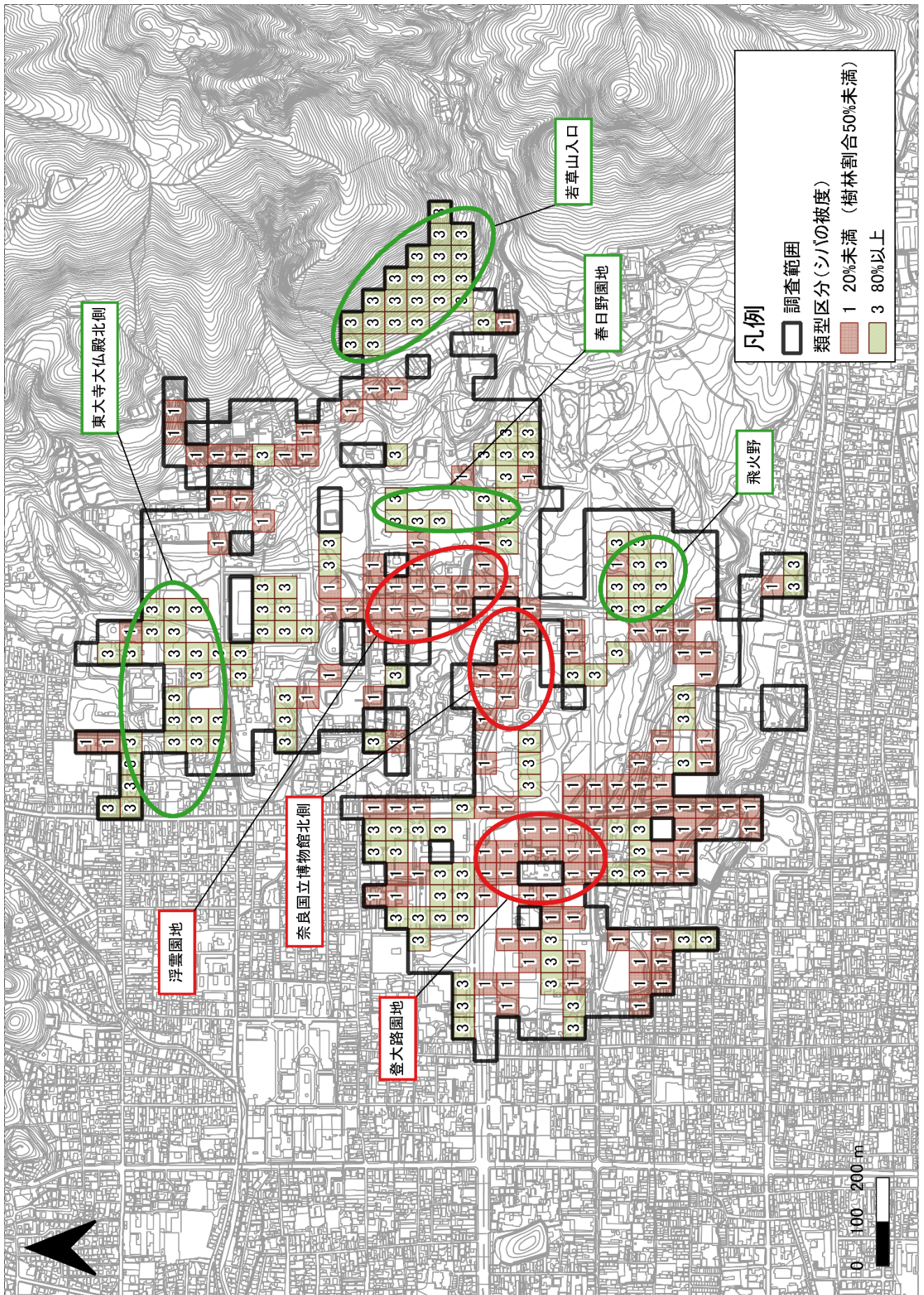


図7 調査範囲における類型区分1（樹林地50%未満）および類型区分3の分布

### 3. 奈良公園平坦部におけるシバ草地の保全・再生実施方針（案）

シバ草地の状態（植被率）の類型区分からシバ草地の保全・再生実施方針（案）を表4に示した。

人の踏圧等によりシバ草地の裸地が多くみられる場所（類型区分1）では、踏圧への対応（人の出入りの抑制や地盤改良等）が実施することができ、シバ草地の再生が見込める場所では対策を実施する方針とし、シバ草地の裸地が一部見られる場所（類型区分2）については、園路の固定化等による観光客の踏圧の軽減を図るとともに、裸地化した場所については張芝によるシバ草地の保全を行う。

なお、現状でシバ草地の状態が良い場所（類型区分3）については、現状を維持し、イノシシによる掘り返し等があった場合はシバの補植を行う。

園地ごとのシバ草地の保全・再生の優先順位については、観光客の滞留状況、シカの生息状況及びシバ草地保全・再生の可能性、景観上の重要性等から総合的に判断し、決めることとする。なお、張芝を行う際は、ノシバを基本とし、洋シバは使用しないこととする。

表4 シバ草地の類型区分と保全・再生実施方針（案）

類型区分	シバ草地の状態 (草本層の植被率)	保全・再生実施方針	確認された場所
1	樹林地以外で裸地が多い場所 植被率：20%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 樹林下はシバ草地の再生が困難なため実施しない。</li> <li>● 踏圧が大きい場所は、踏圧軽減対策（通路の固定化、柵の設置、鹿せんべい販売店の分散等）が実施可能な場合は対策を実施した上で、張芝を行う。</li> <li>● 登大路園地については、観光客の入込数が非常に多いことから、上記に加え、土壌改良などの生育基盤の改良を実施する。</li> <li>● 踏圧が大きく、踏圧の軽減が難しい場所は、シバ草地の再生が困難なため実施しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 登大路園地</li> <li>● 浮雲園地</li> <li>● 奈良国立博物館北側</li> </ul>
2	裸地が一部見られる場所 植被率：20%以上 80%未満	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 踏圧が少ない場所は、適宜、張芝（補植）を行う。</li> <li>● シバが生育しており、踏圧が大きい場所は、踏圧軽減対策（通路の固定化、柵の設置等）を行うとともに張芝（補植）を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 奈良国立博物館西側等</li> </ul>
3	裸地があまり見られず状態がよい場所 植被率：80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状を維持する。</li> <li>● 観光客等による踏圧が増加しないように努める。</li> <li>● イノシシによる掘り返し等シバ草地に欠損が生じた場合は、適宜、張芝（補植）を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 春日野園地</li> <li>● 東大寺大仏殿北側</li> <li>● 飛火野</li> <li>● 若草山入口</li> </ul>

#### 4. シバ草地の保全・再生の優先順位の検討

3. に示した類型区分ごとの保全・再生方針の検討結果を踏まえ、シカの生息環境・餌環境に着目したシバ草地の保全を目的として、シバ草地を保全する場所、裸地化したシバ草地を回復させる場所について優先順位を検討する。

また、裸地化したシバ草地を回復させるための手法（張芝の方法（シバの種類（基本はノシバ）、施工方法、養生方法等）とシバ草地を保全するための対策（観光客による踏圧の軽減策等）について検討し、これらをまとめた「シバ草地の保全・再生実施方針」を作成する。

なお、方針検討にあたっては、3委員会においても協議することとし、植栽委員会の有識者、奈良公園のシバ地の管理者の意見を踏まえることとする。